

ブルヌヴィル, D.M. (1840-1909) の経歴と著作・論文

星野常夫

はじめに

これまで、我が国で発表されたフランスにおける「知能遅滞児」教育の歴史研究を概観すると、全般的に数そのものが少ないのだが、その中でも特に19世紀後半に関するものはほとんどなかった。その期間に展開された歴史的な流れについても、役割を担った人物についても断片的に伝わっているだけであり系統的な研究はない。まず、その期間に起こった歴史的な展開と人物に関する歴史的事実の提示をしなければならないと考える。そのような意味をもつ一連の報告の一環として、本報告は極めて重要な位置を占めているにもかかわらず、これまで我が国で研究対象としては取り上げられなかった人物に焦点をあてる。ブルヌヴィル Bourneville, Désir-Magloire (1840-1909) がその人である。彼は「知能遅滞児」に関する医学的研究をはじめとして「知能遅滞児」の指導教育の実践をし、さらに現在のフランス「知能遅滞児」教育のシステム形成にも強いかわりがあったのである。

今回は、ブルヌヴィルの体系的研究の第一歩として、まず彼の経歴と主要な著作・論文目録を報告する。

1 ブルヌヴィルの生涯と経歴

ブルヌヴィルの生涯を、①医師になるまでの養成期 (1840-1871) ②サルペトリエール院時代 (1871-1879) ③ピセートル院時代 (1879-1909) の三つの時期に分ける。

①出生と医師になるまでの養成期 (1840-1871)

1839年5月16日：両親が結婚する。新郎は父親となる1815年生まれの Alexandre-Marcel Bourneville。新婦は母親となる Rose-Clémentine Legrras である。

1840年10月20日：ウール (Eure) 県のガランシェール (パリの西方、百数十キロにある) で生まれた。この町はエヴウリュエ (Evreux) 郡、サンタンドレ小郡にある。名前を Désir Magloire Bourneville、通称を Désiré Bourneville という。

1842年11月21日：妹の Emest が生まれる。

1849年5月：妹の Eugène が生まれる。

1854年-1855年：エヴウリュエ (Evreux) のリセ第六学年 (中等学校の1年生にあたる：筆者注) に在学。

1855年-1856年：エヴウリュエ (Evreux) のリセ第五学年に在学。

1857年-1858年：アルンソン Alençon のリセ第二学年に在学。

- 1858年-1859年：アルンソン Alençon リセ最終学年に在学。
- 1859年9月：その時、パリの病院の精神科医師でビセートル院の精神科の長であったドゥラシオーヴ医師 (1804-1893) を頼ってパリに上京：ヴァレ Vallée, Hippolyte と Gentilly のアイエ通り6番地にある姉の家に下宿をする。1860年1月-1862年：パリで医学の勉強を始める。ビセートル院のドラシオーヴ、次ぎにルーシーヌ Lourcine 病院では、病院医で医学部教授資格者アドルフ・リシャル Richard のところで。
- 1861年：最初の医学論文「てんかん患者の脳左右半球の重量差について」を医学薬学知識ジャーナルに発表する。
- 1862年「近代医学 La Médecine Contemporaine」に寄稿する。
- 1862年から1865年：パリの病院の通勤助手 Externe。1862年には小児病院の外科医で医学部教授資格者ジラルデ博士、1863年と1865年にはラリオアジュール病院の医師であったウォアレ博士、1864年にはサンタントアヌ病院であったグビル博士、1864年にはボージョン病院の医師アクセンフェルド博士のところに継続的に通う。
- 1862年-1870年：ドゥラシオーヴの「精神医学雑誌 Journal de Médecine Mentale」に定期的に寄稿する。
- 1865年11月24日：パリの病院のインターンに任命される (40人中31位)。同期には Georges Dieufoy (首席者)、Roger Rathery, Justin Lucas Championnière がいる。
- 1866年-1869年：ドゥラシオーヴ博士の部門 (サルペトリエール院、この研修中1866年のコレラ流行時に Amiens で患者の治療を始めた。), Giraldès 博士 (1867年、小児病院)、Charcot 博士 (1868年、サペトリエール院)、Hardy 教授 (1869年、サンルイ病院の分娩部門) でインターンを行う。「医学の動き Mouvement Médical」, 「科学的水治療年報 Annales l' Hydro-thérapie scientifique」に寄稿する。
- 1867年-1870年：Charles Delescluze の2つの雑誌に寄稿する。「産業、芸術と夢のパンテオン Le Panthéon de l' industrie et des arts et Le Reveil」, 「二つの世界の民主主義ジャーナル Journal de la démocratie des Deux Mondes」
- 1869年-1871年：パリ5区ポアシー通り29bis 番地に居を定める。(以前の住居：フォセサンヴィクトワール通り45番地、現在カルディナル ルモアヌ通り)
- 1870年：「病院の写真雑誌 La Revue photographique des Hôpitaux」の共同編集長になる (それは、刊行二年目であった)。この雑誌は1872年まで刊行された。
- 1870年8月2日：医学博士論文の口頭審査を受ける。論取のタイトルは、「脳出血、および脳のその他の疾患における臨床的検温の研究」。
- 1870年8月24日：公的扶助局 l' Assistance Publique がピティエ Pitié 病院のインターンの代行を行うように指示を与える；1871年1月8日と9日の夜の病院に対する砲撃 (記者注：普仏戦争による戦禍) の時には、勇敢に働いた。
- 1870年11月19日：国防軍160大隊の軍医補佐に命じられ、1871年の1月まで続ける。植物園の移動野戦病院の軍医補佐。パリ戒厳令の時には、Ledru-Rollin が創設した「共和国同盟 l' Alliance républicaine」に属する。
- 1871年5月：血の1週間 (パリ・コンミュンの5月21日からの1週間を指す：報告者注) では、負傷した国民兵の裁判抜き処刑に反対し、病院における不可侵権の尊重を守ることに成功した。

②サルペトリエール院 Salpêtrière 時代 (1871年—1879年)

1871年—1879年：サルペトリエール院の医師シャルコーの正式助手。

1871年：パリ5区 La rue des Ecoles 5番地で開業をする。数年後には、カルム Carmes 通り14番地に移る。

1872年：N. パスカル博士、ウィーンのクラウスとともに新しいシリーズの「医学運動 le Mouvement Médical」の共同編集長になる。1873年4月：Ch. de Rémusat に反対する Ba-rodet の立候補支援の委員会のメンバーになる。

1873年5月13日：週刊の雑誌「医学の進歩 le Progrès Médicale」を創刊し、1907年まで、編集長であった。

1876年—1880年：「サルペトリエール院の写真図像集」を刊行する。

1876年5月28日：辞職した Pierre Talandier を継いで、第5区サンヴィクトール地区の市会議員に選出された。

1877年3月22日：国土防衛軍 l'armée territoriale の軍医補佐第2段階に任命される。

1877年4月27日：Barodet の国民議会選挙運動に積極的に参加する。

1878年1月6日：サンヴィクトール地区の議員に再選される。

1878年4月1日：サルペトリエール院に看護婦養成の初等学校を開設する。

1878年5月：ヴォルテール死去100周年の大オリエント Grande-Orient の饗宴に参加する。

1878年5月20日：ビセートル院に看護婦学校を開設する。

1878年7月14日：「看護人のマニュアル」第一版

1878年7月23日：サルペトリエール院の看護婦養成学校を開設する。

1878年12月：シャラントンの国立施設 (La Maison Nationale de Charenton) の二つの主任医師のポストへの任命のための資格コンクールに応募する。選考委員会はシャルル ロバン Charles Robin がつかさどった。リッティとクリスティアンが選ばれ、ブルヌヴィル、ドゥトゥルバン Doutrebent, ジュールヴォアザン Jule Voisin は、選ばれなかった。

③ビセートル院 Bicêtre 時代 (1879—1909)

1879年9月12日：ビセートル院の精神病科の正式医師の選考に合格。同時にジュール-アリスティド-フランソワ-ヴォアザン Jule-Aristide-François-Voisin は、サルペトリエール院に任命された。彼は1879年10月8日にその任に就いた。

1880年：雑誌「神経学雑誌 Les Archives de neurologie」を創刊し、その編集長となる。先天性結節性脳硬化症の2例を発表する。(この疾患は、一般にブルヌヴィル病と呼ばれるようになる。)

1881年：「医学年報 l'Année Médicale」を創刊する。

1881年1月9日：パリ市サンヴィクトール地区の市会議員に再選される。

1881年1月19日：軍隊幹部名簿から抹消される。

1881年2月20日：彼のところにいたインターンのドリエ H. d' Olier が亡くなる。

1881年5月24日：ピティエ病院に看護婦養成学校を開設する。

1882年5月：パリの病院の助産婦採用第1回試験。

1883年2月4日：パリ5区の第1地区 (サンヴィクトールおよびソルボンヌ地区) から、故ルイ

- ・ブランに代わって国民議会議員に選出された。国民議会では急進共和派として極左の位置にあった。彼は、市議員を辞職する。友人のプロンドゥー Blondeau は、1883年7月29日と8月の選挙に当選しなかった。
- 1883年：ブルヌヴィルとブリコン Bricon が「皮膚下注射のマニュアル」の第一版を出版する。
- 1884年5月28日：友人であり、Progrès Médical の事務をしていたプロンドゥー Amédée Blondeau (1884-1884) が死亡する。
- 1884年7月14日：モーベル Maubert 広場のエティエンヌ・ドレ Dolet の仮の銅像の除幕式での講演。
- 1884年12月：高等教育の教授の年齢制限 (70歳) について、下院で提案する。
- 1885年：ブルヌヴィルとブリコンが、「死体解剖のマニュアル」の第1版を出版する。
- 1885年10月18日：クレマンソー Clemenceux の急進主義の名簿で国民議会議員に再選される。
- 1887年2月24日：ルイ・ブラン Louis Blanc の銅像の除幕式に参加する。
- 1887年7月22日：マリア・ブルノン Maria Breugnon と結婚する。彼女は1847年2月16日にシュヴァンヌ-ションジ (ニエーヴル県) で生まれた。
- 1887年7月12日：長男マルセル Marcel が生まれる。
- 1889年5月18日：モーベル Maubert 広場のエティエンヌ・ドレ Dolet の完成した銅像の除幕式での講演。
- 1889年-1890年：国民議会議員選挙でブーランジェ派ナケ Naquet に負け落選。ジュール・フェリーもやはりブーランジェ派に敗れる。ブルヌヴィルは地方議会選挙にも国民議会選挙にも出馬しない。
- 1889年4月7日：友人でパリコンミューンの一員であったポール・ブリコン Paul Bricon 博士が死去。
- 1890年5月1日：ヴァレ財団 La Fondation Vallée の開設。
- 1891年1月21日：フリーメーソンの一員となる。フランス Grande-Orient の「Clémentine Amicitie」集会所にて入団式を行う。
- 1893年：二人の師、ドゥラシオーヴとシャルコーが死去。
- 1893年：ヴィトリの医学教育学施設 IMP を開設。
- 1895年：ラリボアジエールの看護婦学校を開設。
- 1895年11月14日：ブルヌヴィルの長期にわたる要求による公的扶助の許可のための中央局を廃止。
- 1895年11月：彼の家料理人が彼の家から盗みを働き警察に告訴をする。
- 1896年4月：セヌヌ県の上院議員選挙に出馬するが落選。
- 1897年：火葬普及のためのフランス協会の会長に就任。
- 1897年：「ピセートル院の新入職員 Conscrit de Bicêtre」の問題。
- 1897年7月：セヌヌ県の上院議員選挙に落選。
- 1899年2月：セヌヌ県の上院議員選挙に落選。選挙キャンペーン中に明確にドレイファス派として立候補する。
- 1900年1月：セヌヌ県の上院議員選挙に落選。1906年1月1日：ピセートル院を退職する年齢に達し、ピセートル院の医師の仕事を止め、名誉精神科医師となる。
- 1906年2月10日：妻が死亡。パール・ラッシュェズ墓地の火葬場で荼毘に付される。区番号5541
- 1909年4月15日：「遅滞児のための公立初等学校に付属する特殊学級および独立特殊学校の設立

に関する法律」の制定。

1909年5月29日：自宅（パリ第5区カルム通り14番地）で死去。ノアル Noir 氏がコルネ Cornet 氏の助けを得て検死をし、宗教儀式によらない民葬により火葬された。遺灰は、パリのペール・ラシューズ墓地の納骨堂に安置される（Case No.5540）。

1909年2月20日：息子のマルセルがトゥール Toul の軍病院で死亡。享年27歳，独身で第160歩兵連隊の軍曹であった。

1991年6月29日：グランシェールにあるブルヌヴィルの生家に記念プレート取り付けの除墓式が行われる。

2 著作・論文目録

著作・論文もその「生涯」と同じように発表年度順に3つの時期に分ける。

おのおの著作・論文には、まずフランス語のタイトル，次にその訳，掲載誌あるいは出版社，発表年号，号数，ページ数が順に書かれてある。

掲載誌の中で最も多いものは次の2つであり，その名称は，

Progr. Méd. : Progrè Médical

Arch. de neur. : Archives de neurologie

である。ともに，ブルヌヴィル自身が創刊にかかわり編集長もしていた。

①医師になるまでの養成期（1840—1870）

De l' inégalité de poids des hémisphères cérébraux dans l' épilepsie, てんかん患者の脳左右半球の重量差について Journ. des connais. méd., 1861.

Mémoire sur la condition de la bouche chez les idiots, 白痴者の口の状態についての報告書 Ibid., 1862, 10 et 30 mai, 10 et 20 septembre, et 1863, 20 janvier.

Étude sur la médecine légale des aliénés, à propos du traité de Casper, カスパーの処理に関して精神病者の法医学についての研究 Ibid., 1863, p.297, 313, 314.

Socrate était-il fou? ソクラテスは狂人であったか Journ. méd. ment. 1864, p.209.

Épilepsie, stupeur, encéphalite, てんかん, 昏迷, 脳炎 Soc. de biol., 1867.

L' épilepsie, てんかん Mouvem. méd., 1868, N°11.

Hémorrhagie cérébrale et ramollissement cérébral, 脳出血と脳軟化症 Ibid., 1869, N°2 et 26.

Études de thermométrie clinique dans l' hémorrhagie cérébrale et dans quelques autres maladies de l' encéphale, 脳出血および脳のその他の疾患における臨床的検温の研究 Thèse, 学位論文 Paris, 1870.

②サルベトリエール院時代（1871—1879）

De la température dans l' urémie comparée avec la température l' éclampsie puerpérale, 尿毒症と産褥期の子癇（妊娠中毒による痙攣：著作注）の体温比較について Movem. méd., 1872.

De la contracture, 筋肉の拘縮について Ibid., 1872.

De la température dans l' épilepsie et l' hystérie, てんかんとヒステリーにおける体温について Ibid., 1872.

Nouvelles recherches sur la température dans l' urémie et l' éclampsie puerpérale, 尿毒症と産褥

期の子癇の体温比較についての新しい研究 Ibid., 1873.

De l'état de mal épileptique. てんかん発作の状態 Ibid., 1872.

Du sulfate de cuivre ammoniacal dans l'épilepsie, てんかんのアンモニア性銅の硫酸 Progrès Méd., 1874.

Du monobromure de camphre dans l'épilepsie, てんかんにおける樟腦の臭化物について Ibid., 1874.

Observation d'état de mal épileptique, てんかん発作の状態の観察 Soc. de biol., 25 juillet 1874.

Du nitrite d'ampyle dans l'épilepsie et l'hystéro-épilepsie, てんかんとヒステリー性てんかんのアミル亜硝酸塩 Ibid., 12 juin 1875.

Observation d'hystéro-épilepsie avec anurie, guérie spontanément, 自然治癒の無尿症をともなうヒステリー性てんかんの観察 (Avec Regnard.) Ibid., 3 juillet 1875.

De l'oxyde de zinc dans le traitement de l'épilepsie, てんかんの治癒における亜鉛酸化物 Progrès méd., 1875. N°39.

Recherches cliniques et thérapeutiques sur l'épilepsie et l'hystérie, てんかんとヒステリーへの臨床的・治療的研究 Compte rendu des observations recueillies à la Salpêtrière de 1872 à 1875, Paris, 1876.

Du tremblement sénile, 老人性のふるえ Progrès méd., 1876, N°48.

Épilepsie partielle, 部分的てんかん Soc. anat., 1876, p.558.

Contribution à l'étude des localisations cérébrales; observation d'hémiplégie cérébrale infantile spasmodique (épilepsie partielle), 大脳定位研究への貢献; 痙攣性幼児大脳片マヒの観察 Gaz. méd., 1876, p.395.

Iconographie photographique de la Salpêtrière, サルベトリエール院の写真画像集 (Avec Regnard) 1876-1880, 3vol. avec photogr.

③ビセートル院 Bicêtre 時代 (1879-1909)

Note sur un cas de crétinisme avec myxœdème; (cachexie pachydermique.) 粘液水腫を伴う一人のクレチン病患者についてのノート (硬皮症悪液質) (Avec d'Ollier.) Progrès méd., 1880, N°35.

Un idiot jeuneur, 白痴の断食者 Ibid., N°36.

Note sur un cas d'hystéro-épilepsie chez l'homme, 一人の男性ヒステリー性てんかんについてのノート (Avec d'Ollier.) Ibid., N°47 et 48.

Recherches cliniques et thérapeutiques sur l'épilepsie, l'hystérie et l'idiotisme, テンカン・ヒステリー・白痴についての臨床的・治療的研究 (Avec d'Ollier.) Paris, 1880. Premier volume d'une série continuée chaque année.

Bibliothèque diabolique, 悪魔叢書 1880-1890.

Contribution à l'étude de l'idiotie, (Avec Brissaud.) 白痴研究への貢献 Arch. de neur., 1880, t.1, p.69, 391.

Contribution à l'étude de la démence épileptique, てんかん性痴呆への貢献 (Avec Brissaud et d'Ollier.) Ibid., p.213.

Note nécrologique sur d'Ollier, オリエーへの追悼文 Ibid., p.636.

Note nécrologique sur Séguin, セガンへの追悼文 Ibid., p.637.

Le Sabbat, (Avec Teinturier.) 魔女の集会 Ibid., 1882, t.3, p.115, 249.

Lésion ancienne du lobule de l' insula, 島小葉 (脳の外側窩の下面にある：著者注) の古い外傷 (Avec Bonnaire.) Ibid., t.3, p.176.

Note et observation sur les microcéphales, (Avec Willaumé.) 小頭症者の観察とノート Ibid., 1882, t.4, p.52, et 1883, t.6, p.72.

De la rumination chez les animaux, (Avec Séglas.) 動物における反芻について Ibid., 1883, t.6, p.86.

Du mérycisme chez l' homme sain d' esprit, 精神の聖人における反芻について (Avec Séglas.) Ibid., p.246.

Du mérycisme chez les idiots et les aliénés, (Avec Séglas.) 白痴者と精神病者における反芻について Ibid., p.376.

Idiotie et épilepsie partielle consécutive à une méningo-encéphalite chronique, 慢性髄膜炎に由来する白痴と部分的てんかん (Avec Leflative.) Ibid., p.236, et 1884, t.7, p.101.

Appendice à l' histoire du mérycisme, (Avec Séglas.) 反芻症の歴史への補遺 Ibid., 1884, t.7, p.312.

Nouvelle observation d' hystéro-épilepsie chez un jeune garçon : guérison par l' hydrothérapie, 幼い男児におけるヒステリー性てんかんの新しい観察：水治療法による治癒 (Avec Bonnaire.) Ibid., p.86.

Épilepsie jacksonienne, ジャックソン型てんかん Ibid., 1884, t.8, p.295.

Idiotie consécutive à l' hydrocéphalie, 水頭症に由来する白痴 (Avec Leflative.) Progr. méd., 1884, N°17, 23, 25.

De l' emploi de l' acide sclérotinique dans l' épilepsie, てんかんのスクレロティック酸の採用について (Avec Bricon.) Ibid., N°21.

Instabilité mentale avec perversion des instincts, 本能の退廃をとまなう精神的不安定性 (Avec Budor.) Ibid., N°34, 35.

Des familles d' idiots, 白痴者の家族について (Avec Séglas.) Arch. de neur., 1885, t.10, p.186, 347.

Imbécillité et hémiplegie droite symptomatique de méningite tuberculeuse, 結核性菌の徴候である痴愚と右側マヒ (Avec Pillet.) Progr. méd., 1886, N°27.

Idiotie complète symptomatique d' une atrophie cérébrale double, 二重の脳萎縮の徴候である完全な白痴 (Avec Bricon.) Ibid., N°34.

Épilepsie idiopathique. Démence paralytique. Obstruction des respiratoires par des aliments. Anciennes fractures des cartilages costaux. 原因不明のてんかん. マヒ性痴呆. 食物による呼吸管の閉塞. 肋軟骨の古い骨折. (Avec Bricon et Courbarien.) Ibid., N°38, 39, 40.

De la température dans les accès isolés d' épilepsie, てんかんの単発性発作における体温 Ibid., N°48, 49.

De la température centrale dans l' épilepsie, てんかんにおける中心の体温 Arch. de neur., 1887, t.13, p.209.

De l' épilepsie procursive, 突進性てんかんについて (Avec Bricon.) Ibid., 1887, t.13, p.321, t.14 p.55, 235 ; 1888, t.15, p.75, 227, 379, et t.16, p.234, 420.

Deux cas d'athétose double avec imbécillité, 痴愚をともなう重複の不髄運動型の2つのケース (Avec Pillet.) Ibid., 1887, t.14, p.386, et 1888, t.15, p.433.

Alcoolisme chez un enfant de quatre ans. Démence et épilepsie symptomatique de méningo-encéphalite, 4才児のアルコール中毒. 髄膜脳炎の徴候を示す痴呆とてんかん (Avec Baumgarten.) Progr. méd., 1887, N°5.

De la température dans l'état de mal épileptique, てんかん性発作状態における体温 Ibid., N°35.

Note sommaire sur deux cas d'idiotie avec cacheuxie pachydemique, 硬皮性悪液質をともなう二人の白痴者についての簡潔なノート (Idiotie crétinoïde.) Arch. de neur., 1888, t.16, p.431.

Des anomalies des organes génitaux chez les idiots et les épileptiques, 白痴者とてんかん者における生殖器の異常について (Avec Sollier.) Progr. méd., 1888, p.125.

Folie de l'adolescence. Instabilité mentale. Idées vagues de persécution. Succube. 青年期の錯乱. 精神的不安定性. 迫害のあいまいな観念. 女淫悪魔. (Avec Courbarien.) Ibid., N°17, 18.

Épilepsie et asymétrie fronto-faciale, てんかんと顔面前部の不均衡 (Avec Sollier.) Ibid., N°36.

Note statistique sur le rôle de la consanguinité dans l'étiologie de l'épilepsie, de l'hystérie, de l'idiotie et de l'imbécillité, てんかん・ヒステリー・白痴・痴愚の病因論における血族関係の役割に関する統計的ノート (Avec Courbarien.) Ibid., 1889, N°23.

De l'assistance des enfants et des incurables, 子どもと不治者の援助について Ibid., p.132.

Contribution à l'étude de la porencéphalie et de la pseudo-porencéphalie, 孔脳性および偽孔脳性研究への貢献 (Avec Sollier.) Congrès de méd. ment., Paris, 1889, p.343.

Nouvelle contribution à l'étude de la microcéphalie, 小頭症研究への貢献 (Avec Camescasse.) Ibid., p.374.

Épilepsie idiopathique. Bromure de nickel, 原因不明のてんかん. ニッケルの早化物 Progr. méd., 1889, N°24, 26.

Imbécillité légère. Instabilité mentale avec perversion des instincts et impulsions génitales. 軽度の痴愚・性本能と性衝動の異常をともなう精神的不安定性 (Avec Raoult.) Arch. de neur., 1889, t.18, p.110.

Appareil hydrothérapique pour les aliénés récalcitrants, 頑固な精神病者のための水治療法装置 Ibid., p.168.

Rapport au nom de la commission chargée d'examiner le projet de loi tendant à la révision de la loi du 30 juin 1838, 1838年6月30日法の改定計画検討委員会の名前による報告 12 juillet 1889.

Trois nouvelles observations d'hystéro-épilepsie chez les jeunes garçons, 若い男児におけるヒステリー性てんかんの3つの新しい観察 (Avec Sollier.) Arch. de neur., 1889, t.18, p.410, et 1890, t.19, p.98.

Nouvelle contribution à l'étude de l'idiotie myxœdémateuse, 粘液水腫の白痴研究への新しい貢献 Congr. de méd. ment., Rouen, 1890, p.127.

Contribution à l'étude de la cachexie pachydermique, 厚皮性悪液質研究への貢献 Progr. méd., 1890, N°26, 27, 30, 33, 34.

Deux nouvelles observations d'hystérie mâle, 男性ヒステリーの新しい二つの観察 Arch. de neur., 1891, t.22, p.362.

Imbécillité et instabilité mentale. Impulsions génitales. 痴愚と精神的不安定性. 性的衝動 (Avec

Srel.) Progr. méd., 1891, N°37.

Morphinomanie à deux, 二人のモルヒネ中毒 Ibid., 1891, p.101, 120.

Recueil de mémoire, notes et observations sur l' idiotie, 白痴に関する観察・ノート・論文選集 Paris, 1891.

Histoire de la section des enfants de Bicêtre, ビセートル院の子ども部門の歴史 Paris., 1892.

Histoire de la fondation Vallée, ヴァレ財団の歴史 Paris, 1892.

Les colonies d' aliénés, 精神病者のコロニー Congrès de méd. ment., Blois, 1892, p.159.

De l' utilisation agricole et horticole des eaux d' égout dans les asiles d' aliénés, 精神病院での下水の農業と園芸への利用 Ibid., p.333.

Le traitement chirurgical de l' idiotie, 白痴の外科的治療 Ibid., p.261, et Arch. de neur., 1892, t.24, p.330.

De quelques formes de l' hydrocéphalie. Idiotie hydrocéphalique et ses variétés, 水頭症のいくつかの形態について。水頭症白痴とその変種 Congrès la Rochelle, 1893, p.556.

De l' emploi du bromure de camphre dans le traitement de l' épilepsie vertigineuse, めまいを伴うてんかん治療における樟脳臭化物の使用について Progr. méd., 1893, N°18.

Du traitement chirurgical et médico-pédagogique des enfants idiots et arriérés, 白痴児と遅滞児の外科的および医学教育的治療 Ibid., 1893, N°25.

Idiotie et épilepsie symptomatiques d' une anomalie cérébrale, 白痴および大脳異常の徴候を示すてんかん (Avec Sollier.) Ibid., N°44.

Trente cas d' épilepsie traités par des injections sous-cutanées de suc testiculaire, 睾丸液の皮膚下注射によって処置された30人のてんかん患者 (Avec P. Cornet.) Ibid., N°49, 50.

Benjamin Ball, ベンジャマン ボール Arch. de neur., 1893, t.25, p.399.

Delasiauve, ドゥラシオーヴ Ibid., t.26, p.65.

Chalcot, シャルコー Ibid., t.26, p.177.

Assistance, traitement et éducation des enfants idiots et dégénérés. 白痴児と変質児への援助・治療・教育 Rapport au Congrès d' assistance publique, Lyon, 1894.

Contribution à l' étude de la microcéphalie, 小頭症研究への貢献 Congrès des méd. al. et neur., Clermont-Ferrand, 1894, p.526.

Le sauvage de l' Aveyron, アヴェロンの野生児 Arch. de neur., 1894, t.27, p.463.

Traitement et éducation de la parole chez les enfants idiots et arriérés, 白痴児と遅滞児における会話の治療と教育 (Avec Boyer.) Ibid., 1895, t.30, p.108.

Imbécillité prononcée probablement congénitale; spasmes musculaires et coprolalie, 先天的と予想される, はっきりとした痴愚 Ibid., t.30, p.450.

Trois cas d' idiotie myxœdémateuse traités par l' ingestion thyroïdienne, 甲状腺注射で処置された三人の粘液水腫癩白痴のケース Congrès de Bordeaux, 1895, p.151. et Arch. de neur., 1896, t.1, p.1.

Sclérose cérébrale hypertrophique tubéreuse compliquée de méningite, 髄膜炎で複雑にされた肥大化塊状の大脳硬化症 Progr. méd., 1896, N°9.

Instabilité mentale, alcoolisme, crises hystérisiformes, guérison, 精神的不安定, アルコール中毒, ヒステリー型発作, 治癒 (Avec Boyer.) Arch. de neur., 1896, t.1, p.199.

Assistance et éducation des enfances arriérés, 遅滞児の援助と教育 Ibid., p.313.

Paréso—analgsie des extrémités supérieures avec panaris analgsiques ou maladie de Morvan. Héniplegie droite et paraplégie, 鎮痛剤ヒョウソあるいはモルヴァンの疾患ともなう極限のパレソ無感覚 Ibid., p.441.

Crânes et cerveaux d' idiots ; craniométrie, 白痴者の頭蓋と脳 ; 頭蓋測定 Br. Paris, 1896.

Du placement des aliénés dans les asile, 精神病者の精神病院への収容 Congrès de Nancy, 1896, p.187, 194.

Action de la glande thyroïdienne sur la croissance et l' obésité chez les myxœdémateux, obèses ou atteints de nanisme. 肥満症あるいは小人症におかされた粘液水腫患者における成長と肥満に対する甲状腺の作用 Ibid., p.372.

Sclérose cérébrale hémisphérique ; idiotie, hémiplegie droite et épilepsie consécutives, 大脳半球硬化症 ; 白痴・右側片マヒ・続発性てんかん Arch. de neur., 1897, t.3, p.186.

Construction d' un pavillon d' agités à l' asile de Villejuif, ヴィルジュイフの精神病院の躁病者棟の建設 Ibid., p.412.

Influence étiologique de l' alcoolisme sur l' idiotie, 白痴におよぼすアルコール中毒の病因論的影響 Progr. méd., 1897, N°2.

Méningo—encéphalite chronique ou idiotie méningo—encéphalique, 慢性髄膜脳炎と脳性髄膜白痴 (Avec Mettetal.) Ibid., N°8.

Idiotie myxœdémateuse ; traitement par l' ingestion de gland thyroïd de mouton, Ibid., 粘膜水腫性白痴 ; 羊の甲状腺注射による処置 (Avec Dardel.) Progrés méd., 19mars 1898.

Traitement chirurgical de l' épilepsie, てんかんの外科的治療 Congrès d' Angers, 1898, p.522.

Idiotie hydrocéphalique acquise, 後天性水頭症の白痴 (Avec Noir.) Arch. de neur., 1898. t.5, p.288.

Alcoolisme de l' enfance. Instabilité mentale. Imbecillité morale. 子どものアルコール中毒性. 精神的不安定. 精神的痴愚 (Avec Boyer.) Arch. de neur., 1899, t.7, p.58.

Hystérie de l' enfance, 子どものヒステリー (Avec Boyer.) Ibid., 1899, t.8, p.91.

Lettre sur la création de classes spéciales pour les enfants arriérés, 遅滞児のための特殊学級設立に関する公的書状 Br. Paris, 1899, t.8, p.91.

Manie de l' adolescence ou nymphomanie ; guérison, 青年期のマニーあるいはニンフォマニア (Avec Katz.) Progr. méd., 1899. N°7. 112.

Nouveaux cas d' état de mal épileptique, てんかん発作の新しい二つのケース Ibid., N°11

Instabilité mentale, hérédité très chargée ; traitement pédagogique, guérison, 精神的不安定性, 誇張された遺伝 ; 教育学的処置, 治療 (Avec Boyer.) Ibid., N°22

Idiotie symptomatique de sclérose trébéreuse ou hypertrophique, 結節性あるいは肥大性硬化症の徴候を示す白痴 Ibid., N°41.

De l' éosinate de sodium dans le traitement de l' épilepsie et des accidents qu'il produit, てんかんの治療と治療が起こした副症状におけるナトリウムの染料エオシンについて (Avec Chapotin.) Ibid., N°52.

Idiotie symptomatique de lésions destructives du lobule de l' insula et de sclérose atrophique du

lobe temporal, 島小葉の破壊的損傷および側頭葉の萎縮性結節の徴候を示す白痴 (Avec Bellin.) Arch. de neur., 1900, t.9, p.493.

Idiotie et épilepsie symptomatiques de sclérose tubéreuse ou hypertrophique, 結節性あるいは肥大性硬化症の徴候を示す白痴とてんかん Ibid., t.10, p.29.

Folie de l' adolescence, 青年期の狂気 (Avec Bellin.) Ibid., t.10, p.112.

Anatomie pathologique de l' idiotie, 白痴の病理学的解剖 Rap. au Congrès internat. de méd., Paris, 1900, Sect. de neur.

Nouvelle contribution à l' étude de la microcéphalie, et en particulier au traitement médico-pédagogique des idiots microcéphales, 小頭症, とりわけ小頭症白痴の医学教育的処置研究への新しい貢献 Ibid., Section de psychiatre, p.234.

De l' hystérie mâle de l' enfance, 男児のヒステリーについて Progro, 1900, N°16. (Avec Boyer.)

Sclérose en plaques ayant débuté dans l' enfance ; imbécillité, 幼年期に発病した多発性硬化症 Ibid., N°21.

Aliénés méconnus et condamnés, 不遇の不治宣告をされた精神病者 Ibid., p.328.

Comparison entre les enfants anormaux au point de vue de la persistance ou de l' absence de thymus, 胸腺の継続と欠如という視点からの異常児比較 Ibid., 23 juin 1900.

Vie sexuelle, mariage et descendance d' un épileptique, 性生活, 結婚とてんかん患者の子孫 (Avec Poulard.) Ibid., 1900, N°38, 39.

Cas d' affection familiale à symptômes cérébro-spinaux ; diplégie spasmodique infantile et idiotie chez deux frères ; atrophie du cervelet, 脳脊髄性の徴候のある家族性疾患のケース ; 二人の兄弟における幼児期の痙攣性両側マヒ ; 小脳の萎縮 (Avec Crouzon.) Progr. méd., 1901, N°17.

Idiotie myxoédémateuse ; traitement thyroïdien, 粘液水腫の白痴 ; 甲状腺治療 (Avec Laurens.) Ibid., N°23.

Note sur l' influence de la syphilis héréditaire, de l' alcoolisme et de quelques professions insalubres sur la production des maladies chroniques du système nerveux chez les enfants, 先天性梅毒の影響に関するノート, アルコール中毒といくつかの不健康な職業が幼児の神経系慢性疾患の生成に及ぼす影響について Congrès des méd. al. et neur., Limoges, 1901, p.473.

Idiotie microcéphalique ; cerveau pseudo-kystique, 小頭症白痴 ; 擬嚢胞性大脳 (Avec Oberthür.) Arch. de neur., 1901, t.11. N° d' avril.

Contribution à l' étude de l' idiotie morale et en particulier du surmenage avec symptômes de celle forme mentale, 精神面の白痴研究への貢献特に精神形態の症状をもつ過労について Avec Boyer.) Ibid., 1902, t.13. N° d' avril, et t.14. N° de nombre.

Nouvelle contribution à l' étude de l' épilepsie vertigineuse et à son traitement par le bromure de camphre, めまいを持つてんかんおよび樟脳の臭化物によるその治療にたいする新しい貢献 Ibid., juillet 1902, t.14.

Sur l' encombrement des asiles, 病院の過剰について Congrès de Grenoble, 1902, p.425.

Sur l' assistance des enfants anormaux, 異常児の援助について Ibid., p.427.

Traitement médico-pédagogique de l' idiotie, 白痴の医学教育学的治療 Congrès de Bruxelles, 1903, p.273, 280.

Rachitisme et idiotie, くる病と白痴 (Avec Lemaire.) Ibid., p.281.

Imbécillité ; hémiplegie gauche ; épilepsie ; état de mal ; mort ; atrophie considérable de l' hémisphère cérébral droit, 痴愚 ; 左側マヒ ; 発作状態 ; 死 ; 大脳右側半球の過度の萎縮 Arch. de neur., 1904, t.18, p.461. (Avec M^{lle} Maugeret.)

Quelques formes de nanisme et leur traitement par la glande thyroïde, 小人症の諸形態と甲状腺によるその治療 (Avec M^{lle} Maugeret, et et Lemaire.) Progr. méd., 1904, N°24, 25, 26, 28, 38, 39, 40, 50.

Fixation du nombre des médecins dans les asiles publics d' aliénés, 公立精神病院の医師数の固定 Br. Paris, 1905.

Sclérose atrophique hémisphérique. Imbécillité ; hémiplegie droite ; épilepsie ; accès et vertiges ; démence, 半球の萎縮性硬化症. 痴愚 ; 右側マヒ ; てんかん ; 発作とめまい ; 痴呆 (Avec M^{lle} Maugeret.) Arch. de neur., 1905, t.19, p.18.

Statistique et enseignement des enfants idiots et épileptiques internés dans les asile d' aliénés, 精神病院に収容された白痴児とてんかん児の統計と教育 Ibid., p.269.

L' assistance des enfants arriérés et épileptiques à Lyon, リヨンにおける遅滞児とてんかん児への援助 Ibid., 408.

Contribution à l' étude la démence épileptique, てんかん性痴呆への貢献 Ibid., 1905, t.20, p.337.

Les enfants anormaux au point de vue moral. 道徳的視点から見た異常児 Br. Caris, 1905.

Traité médico-pédagogique des diverses formes de l' idiotie, さまざまな白痴に対する医学-教育学的処遇 Br. Caris, 1905.

Note statistique sur le rôle de la consanguinité dans l' épilepsie, l' hystérie et l' imbécillité. てんかん・ヒステリー・痴愚における血族関係の役割に関する統計学的ノート Congrès de Rennes, 1905, p.1905, p.194.

Contribution à l' étude de la démence épileptique, てんかん性痴呆への貢献 Ibid., p.196.

Traitement médico-pédagogique des idiotie les plus graves, 最重度白痴児の医学教育学的治療 Ibid., p.231, et Arch. de neur., 1906, p.246,381,460.

Myxœdème et Mongolisme, 粘液水腫と蒙古症患者 Ibid., p.262.

L' hydrothérapie dans les maladies nerveuses et mentales, 神経的・精神的疾患の水治療法 Ibid., p.281.

Deux cas de méningo-encéphalite chroniqueavec cécité, 失明をともなう慢性髄膜脳炎の2ケース Arch. de neur., 1906, t.21, p.1.

Imbécillité congénitale type mongolien. Traitement thyroïdien. 先天性蒙古症型の痴愚 (Avec Boyer.) Arch. de neur., 1906, t.22, p.425. Congrès de Lille 1906, p.217.

Myxœdème et Mongolien, 粘液水腫と蒙古症患者 Congrès de Lille, 1906, p.324.

De l' état de mal épileptique, てんかん性発作について (Avec Boyer.) Arch. de neur., 1907, t.2, p.419.

Contribution à l' étude de la paralysie générale juvénile, 未成熟期の進行性マヒ研究への貢献 (Avec Richet fils.) La Clinique, 1908, p.793.

Étude anatomo-clinique d' un cas de tabes et de paralysie générale chez une enfant de quinze ans, 15歳児における進行性マヒと脊髄癆ケースの解剖・臨床研究 (Avec Kindberg et Richet.) Nouv.

Inconogr. la Salpêtrière, 1908, p.475.

参考文献

1. Poirier, J. et al., De Bourneville à la scrérose tubéreuse, Médecine— Sciences, 1991
2. Semelaigne, R., Les pionniers psychiatre française, Libraire J. B. Baillière et fils, tome 2, 1932, 241—250.
(Bourneville の項目)
3. Gateaux—Mennecier, J., Bourneville et l' enfance aliénée, Centurion, 1989.